

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

現代の多くの人間に都会と田舎いなかとどちらが好きかという問いを出すのは、①蛙かえるに水と陸とどっちがいいかと聞くようなものかもしれない。

田舎だけしか知らない人には田舎はわからないし、都会から踏み出した事のない人には都会はわからない。都鄙ひ両方に往来する人は両方を少しずつ知っている。その結果はどちらもわからない前の二者よりも悪いかもしれない。性格が分裂して徹底した没分曉漢わからずやになれなくなるから。それはとにかく、自分は今のところでは田舎よりも都会に生活する事を希望し、それを実行している。

田舎の生活を避けたい第一の理由は、田舎の人のあまりに親切な事である。人のする事を冷淡に見放しておいてくれない事である。たとえば雨のふる日に傘をささないで往来を歩きたいと思っても、なかなかそうはさせてくれない。鼻の先に止まった蚊をそつとしておきたいと思っても、それは一通りの申し訳では許されない。親切であるために人のAは断えず注意深い目でBから監視されている。たとえば何月何日の何時ごろに、私がすすけた表薫帽むすわらぼうをかぶって、某の橋を渡ったというような事実が、私の知らない人の口から次第に伝わって、おしまいにはそれが私の耳にもはいのである。個人のAは寒天のような濃厚な媒質を透して伝播するのである。

反応を要求しない親切ならば受けてもそれほど恐ろしくもないが、田舎の人の質樸しつぱくさと正直さはそのような投げやりな事は許容しない。それでこれらの人々から受けた親切は一々明細に記録しておいて、気長にそしてなしくずしにこれを償却しなければならぬのである。

そこへ行くとさすがに都会の人の冷淡さと薄情さはサツパリしていて気持ちがいい。大雨の中を頭からぬれひたつて銀座通りを歩いていてもだれもとがめる人もなければ、よけいな心配をする人もない。万一受けた親切の償却も簡易な方法で行なわれる。

それだから一見閑静な田舎に住まっていますは、とても一生懸命な自分の仕事に没頭しているわけにはいかない。それには都会の「人間の砂漠」の中がいちばん都合がいい。田舎では草も木も石も人間くさい呼吸をしてBから私に話しかけ私に取りすがすがすが、都会ではぎつしり詰まった満員電車の乗客でも川原かわらの石ころどうしのように黙ってめいめいが自分の事を考えている。そのおかげで私は電車の中で難解の書物をゆっくり落ち着いて読みふける事ができる。②宅うちにいれば子供や老人という代表的田舎者がいるので困るが、電車の中ばかりは全く閑静である。このような静かさは到底田舎では得られない静かさである。静か過ぎてあまりにさびしいくらいである。

これでCに入り込んでいる「Dの人」がいなければどんなに静かな事であろう。

- ※ 都鄙 …… 都会といなか。
- ※ 没分曉漢 …… 自分の思い通りにならないと気の済まない、わがままな人「分からず屋」の特殊な表記。
- ※ 媒質 …… 音を伝える空気などのように、物理学上の仲立ちとなる物質。
- ※ 質樸 …… そのままで純真なこと。「質朴」とも書く。

問一 Aに入る四字熟語を空欄を埋めて完成させなさい。

問二 Bに入る言葉で最も適当なものを、次から一つ選び記号で答えなさい。

ア 一方 イ 三方 ウ 四方 エ 両方 オ 他方

問三 傍線部①「蛙に水と陸とどっちがいいかと聞くようなもの」とある。人間に都会と田舎とどちらが好きかという問いが、なぜ「蛙に水と陸とどっちがいいかと聞くようなもの」なのか。分かりやすく説明しなさい。

問四 C・Dに入る言葉で最も適当なものを本文から抜き出して答えなさい。

問五 傍線部②「宅にいれば子供や老人という代表的田舎者がいる」とある。子供や老人が「代表的田舎者」なのはなぜか。その理由をわかりやすく説明しなさい。

二 次の傍線部のカタカナを漢字に漢字をひらがなに直しなさい。

- | | | |
|--|--|--|
| ① コ ン ダ ン カ イを開く | ② 法令を ジュ ン シ ユする | ③ ホ ウ ビ を与える |
| ④ ラ ン カ クを禁じる | ⑤ カ ツ シ ョクの肌 | ⑥ 水草が ハ ン モ する |
| ⑦ 船が ザ シ ョ ウする | ⑧ ニ クまれ役 | ⑨ セ ツ ケ イを歩く |
| ⑩ カ イ ソ ウを採る | ⑪ 全体を ト ウ カ ツする | ⑫ イ カ ン に思う |
| ⑬ 市役所の管轄 | ⑭ 哀悼の意を表します | ⑮ 惰性で進む |
| ⑯ 恭悦に存じます | ⑰ ロマンある叙情詩 | |